

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年11月22日)

事業コード	H16-建-継-33			区 分	国庫補助・県単独
事業名	火山砂防事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	砂防えん堤工			課 室 班 名	砂防課 砂防班 (tel) 2532
路線名等	二級比詰川水系 鹿の沢			担当課長名	芳賀 正廣
箇所名	男鹿市船川港日詰			担当者名	主幹(兼)班長 秋元 良三
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	2	施策名	災害に強い県土づくり	
	目標コード	5	施策目標名	土砂災害危険箇所整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H14~H18(5年)	総事業費	4.9億円	国庫補助率	5.5/10		
事業規模	砂防えん堤2基 H=14.0m L=65.6m H=10.0m L=47.2m						
事業の立案に至る背景	<p>当溪流は男鹿国定公園内の寒風山に源を發し、保全対象として人家26戸・国道等を抱える溪流である。</p> <p>近年の豪雨により流域内の渓岸侵食が進行し、渓床内に厚く堆積したため、今後の豪雨により火山噴出物を含んだ土石流が下流保全人家やJR、観光道路として重要な役割を担っている国道101号、さらには3haにも及ぶ田畑に甚大な被害を及ぼすことが懸念されていた。このことから、砂防施設整備をもって土砂災害から住民の生命・財産を保全するものである。</p>						
事業目的	<p>【主たる目的】 土石流を砂防えん堤で捕捉し、下流域に暮らす住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】 人 家 26戸 国 道 L=100m 町 道 L=1,200m J R 男鹿線 L=500m 耕 地 3.0ha</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
事業内容		全 体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降	
	事業費	488,000	140,000	100,000	110,000	138,000	
	経費内訳	工事費	388,000	63,000	82,000	107,000	136,000
		用補費	40,000	24,000	16,000	0	0
		その他	60,000	53,000	2,000	3,000	2,000
	財源内訳	国庫補助	268,400	77,000	55,000	60,500	75,900
		県 債	197,000	56,000	40,000	44,000	55,000
その他							
事業内容	22,600	7,000	5,000	5,500	7,100		
事業内容		詳細設計 用地補償 砂防えん堤工 管理用道路工	砂防えん堤工 管理用道路工	砂防えん堤工	砂防えん堤工		
事業推進上の課題	特になし						
上位計画での位置付け	「あきた21総合計画」第2期実施計画において、「災害に強い県土づくり」の施策として位置づけられている。						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	今年7月の「新潟福島・福井豪雨」や10月の「新潟県中越地震」に見られるように、土砂災害に対するハード・ソフト一体となった砂防施設整備が急務となっている。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率		データ等の出典	危険箇所調査結果 平成16年 3月		
	指標の種類	成果指標 (業績指標)					
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数					
	目標値 a	24.9%					
	実績値 b	20.8%					
達成率 b/a	83.5%		把握の時期				

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	砂防えん堤は、土石流の発生・流下を抑制する最も有効な手段である。 当溪流は地元住民から対策を要望されている。 砂防法第5条により工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。	20点
緊 急 性	流域内からの土砂流出は顕著であり、堆積した土砂の土石流化が懸念されるため、早急な砂防施設整備が必要である。 「あきた21総合計画」第2基実施計画において、整備率の向上が必要な土砂災害危険箇所位置付けられている。	10点
有 効 性	砂防施設を整備することにより、土砂災害から人命・財産が守られ、安全で安心して暮らせる地域が創出される。 土石流危険溪流の整備率向上に寄与する事業であり、施策目標への貢献度は高い。	10点
効 率 性	事業の費用便益は3.32であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 4.88億円 ・総便益の現在価値 16.20億円 砂防えん堤をスリットタイプにしたことや、再生骨材を活用することによりコスト縮減を図っている。	40点
熟 度	地元要望も強く、事業に対しても協力的である。	10点
判 定	ランク (○) 土石流発生の可能性が高く、整備後の有効性も高いため、引き続き実施すべきである。	90点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

事業を継続する。事業実施に当たっては、コスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16 - 建 - 継 - 33) 箇所名 (火山砂防 鹿の沢)

適用事業名 砂防事業

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ				
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計			20	
緊急性	危険度				
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位の低下、残斜面の安定性等
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計			10	
有効性	災害発生時の影響				
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計			10	
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	10	B/C = 3.32
		1.0以上2.0未満	5		
		1.0未満	0		
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	10	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している		0			
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	計			40	
熟度	地元の協力状況				
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	10	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
	計			10	
	合計		100	90	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	90	
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		